

～ブレずにまっすぐ！～

衆議院議員

小山のぶひろ



氏に訊く

茶業振興等について農水委員会で主張

○茶業振興について農水委員会にて質問

今国会においては、私は農林水産委員会に所属しております。農林水産委員会では、お茶についての質問をことあるごとに行ってきました。令和4年4月19日の質問では、市況の見通しと茶業振興にかける大臣の意気込みについて尋ねました。金子農水大臣からは、天候不順等の予測できない要因はあるものの、在庫が例年よりも少ないとのアンケート結果もあり、市況の滑り出しは高値であったとの答弁がありました。私は、産地によってはそのようなところもあるかもしれませんが、静岡県内の市況は厳しい地区もあり、これまで数年間の茶価低迷で、茶農家の経営は圧迫されており、現在も厳しい経営環境にあると考えています。また金子大臣からは、消費拡大について「日本茶のあるくらし」プロジェクトを進めていきたいとの答弁をいただきましたが、私は、県外での対面販売等による需要開拓やインターネット販売を含めた直販の取組みをもっと政策的に支援すべきと考えています。

○お茶の抗ウイルス機能への研究予算を増やすべき

私は、新型コロナウイルスの不活化について

研究論文をまとめた京都府立医科大学の松田修教授を訪ね、詳しくお話を伺いました。インフルエンザなどへの予防効果と同様に、カテキン、とりわけエピガロカテキンガレートによって、新型コロナウイルス従来株のスパイクが機能を失うことが試験管実験において証明されたとのことでした。スパイクの機能を失わせることで、新型コロナウイルス従来株が人体の細胞に侵入することを防ぐことが期待できます。また、お茶を飲むことで、口腔内の新型コロナウイルス従来株の不活化が期待できること、飛沫に含まれる新型コロナウイルスの意味で抑制効果が期待できること、他人への感染についても公衆衛生的な意味で抑制効果が期待できること、人体への臨床実験ができていないことから、週刊誌で報じられたことが限界となつていきます。この点についても、私は3月17日の農林水産委員会質問し、お茶の公衆衛生的な感染抑制効果の研究にもっと予算を投じるべきであると主張いたしました。

○お茶園の耕作放棄地をこれ以上増やさないために

日本農業新聞の記事にもありましたが、傾斜地の耕作放棄地が増えていきます。静岡県ではお茶の栽培面積が全国で最も減少し、県内の傾斜地の耕作放棄地の中には、かなりのお茶畑が含まれています。2020年までは、九州以外の茶産地の農家は、平均で収益をコストが上回り、お茶農家の経営は逼迫してきました。耕作放棄地の増加は、農地の持つ多面的機能の喪失を意味します。多面的機能を維持するために「農地であること自体を評価する」新たな制度の創設も必要ではないかと考えます。また、国は「みどりの食糧システム戦略」において、2050年までに100万haの農地で有機農業を行う目標を定めました。とりわけお茶については、国内・輸出とも有機の需要が高まっており、掛川市でもお茶の有機専用工場が設立されました。有機生産への転換を志向する農家への支援をもっと拡充すべきと考えます。